

水資源機構 入札等監視委員会 審議概要

開催日及び場所	平成27年2月23日(月) 本社会議室	
委員	角田 茂(学校法人参事) 矢橋晨吾(大学名誉教授) 西谷隆亘(大学名誉教授) 田中俊充(弁護士) 栗田 誠(大学院教授)	
審査対象期間	平成26年10月1日～平成26年12月31日	
抽出案件	総件数	5 件 (備考)
工事	一般競争	1 件
	公募型指名競争入札	0 件
	通常指名競争入札	1 件
	随意契約	0 件
建設コンサルト	公募型プロポーザル・簡易公募型プロポーザル	0 件
	公募型指名競争入札・簡易公募型競争入札	1 件
	標準プロポーザル	0 件
	一般競争	0 件
	通常指名競争	1 件
	随意契約(競争性のある)	0 件
	随意契約(特命随意契約)	0 件
	補償契約	1 件
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	1. 一般競争入札(工事)	
	【石綿管除去対策大池支線五井工区外工事】	
	・参加申請が2者あって、技術点が相当開いているが、技術点の下限値の基準はあるのか。また、技術点の低い者が落札することもあるのか。	・特に基準はありません。技術点が0点であっても、価格点との合計で高い者が落札者となります。
	・本案件以外にも「石綿管除去対策」という名称の工事があり、金額が高くなっているが、石綿管除去の安全対策ということが原因なのか。	・石綿管除去の安全対策というよりも、限られた工期の中で営農等に支障が出ないように工事を行う必要があり、可能な限りまとめて発注することが合理的と判断した結果、このような規模になっています。
・施工計画で、1者はいろいろ書いているが、もう1者は何も書かないで、標準案どおりとなっており、あまり熱意がないと感じた。結果として標準案どおりの者が落札できるというケースは多いのか。	・今回の落札者は、過去にも当事業部の工事を受注しています。その時は3項目ほどの提案がありましたが、標準案相当であったため技術点は0点でした。今回提案を行って標準案相当で0点になるのも、標準案のとおり施工する旨表明しても結	

水資源機構 入札等監視委員会 審議概要

		果は同じと判断して、標準案どおりとしたものと推測します。
	2. 通常指名競争入札（工事）	
	【武蔵水路旧忍川放水路改築工事】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・一般競争から指名競争に切替えた理由は、工事期間が限られているということだったが、もし、この工事がなされないとすると、具体的にどのような不都合があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲への降雨が川などから武蔵水路に入ってくることになることから、その排水ができなくなる恐れがあります。
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの会社が辞退しているが、何か不自然な要素はなかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般競争における参入可能者は460者あったが、参加者はありませんでした。指名競争に切替えても多くの者の辞退が予想されることから、多めに指名しました。 	
	3. 公募型・簡易公募型指名競争入札（土木関係コンサルタント業務）	
	【分布型流出予測システム構築】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の手続は、広い意味で言えば指名競争入札ということによいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回2者が参加の意向を表明されたが、単なるシステムの構築ということであれば、技術的に難しいものではなく、この2者しかできないという話ではないように思うが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずしもこの2者しかできないというものではございません。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどからの説明で、この業務が特殊な技術を必要とする業務でなく、一般的な情報システム構築の能力があればできるという考えがあったのか。仮に、このくらいの規模のものについては、技術的な総合評価の手続をとることは、基準からは可能なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準上は、5,000万円以上でWTOの下限値までは、技術的に高度でないものは簡易公募型の競争入札、高度なものは簡易公募型のプロポーザルという2種類しか選択できないようになっています。 	

水資源機構 入札等監視委員会 審議概要

	4. 通常指名競争入札（土木関係コンサルタント業務）	
	【幹線水路PC管サイホン保全設計等業務】	
	<p>・一般競争入札（総合評価落札方式）を行い、不調となったことから、指名競争入札に切替えたわけだが、技術的な面の評価は行わないのか。また、業者を選定するにあたり総合点数を300点以上としているが、小規模な案件であり、技術的なことは分からないが、大規模な会社ばかり指名する必要性があったのか。</p>	<p>・一般競争入札を行うにあたり、予定価格が1000万円を超えるので総合評価落札方式で行いましたが、指名競争入札の場合は、総合評価落札方式と同様に、施工実績、同種業務又は類似業務の実績などを考慮のうえ、絞り込みをしております。</p>
	<p>・水資源機構は11月以降は全て電子入札になるのか。</p>	<p>・電子入札については、10月から運用しております。基本的には電子入札になりますが、一部電子入札で対応できない案件もあります。</p>
	5. 補償契約	
	【事業損失補償】	
	<p>・補償金を受け取った方は、補修工事を施工する義務はあるのか。</p>	<p>・補償金につきましては、金銭補償ということで、一括して渡し切りとなっております。</p>
	<p>・調査の結果、クラックの幅が広がったとのことだが、補償金の算定方法は、元のクラックの幅に戻すのではなく、完全に埋めるというような積算になっているのか。</p>	<p>・そのとおりです。</p>
	<p>・今回補償された建物の近隣には、一般住宅もあると思うが、特に影響は出ていないか。</p>	<p>・出ているところもあります。</p>
<p>・これから個別に調査を行うのか。</p>	<p>・工事が終わった後の建物調査は完了しております。</p>	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	・なし	・なし

○問い合わせ先

埼玉県さいたま市中央区新都心1-1番地2

ランド・アクシス・タワー内 電話 048-600-6500

水資源機構入札等監視委員会事務局

技術管理室契約企画課長 河野 裕明 (内線 2251)

技術管理室担当課長 今井 敬三 (内線 4631)

用地管財部補償業務課長 杉浦 正人 (内線 2331)